手術室この一年

手術室看護科長　鈴木多恵子

平成19年の年明けは,元旦早々胸部外科・外科・そして脳外科と,手術が立て続けに行われ,今年はどんな年になるのだろうと,不安に感じたことを,この原稿を書くに当たって,思い出したところです. しかし,大きな事故もなく一年間を過ごす事ができ,皆様には感謝申し上げます.

＜手術室年間看護目標と評価＞

Ⅰ自己の役割を認識し責任ある業務を遂行する

Ⅱ手術室における接遇及び患者環境の整備を主にした患者サービスの向上を図る

手術室のリーダーおよびメンバーは,個々の役割を念頭に,日々の業務を行っていますが,自分に与えられた仕事が終わるとそれで良いのではなく,次の手術の準備手伝いや,術前訪問に行っていないスタッフが訪問できるように,声かけしてサポートするという体制が,まだ十分に出来ていないと言えます.スムーズで安全に手術室業務が行えるよう,お互いが協力し合い,患者様に安心して手術を受けて頂くために,又,リーダーの指示に従いフォローするメンバー・メンバーの不足しているところを,サポートするリーダーと言う,良いチーム連携を図れるためにも,看護係長と共に,環境作りのサポートをして行かなければならないと思います.接遇に関しては,委員を中心に活動しましたが,スタッフ間のニックネームで呼び合ったり,友達言葉で仕事をしたりで,接遇意識に欠けていたところが,目立ちました.しかし,患者様に関しては入室時に必ず,自分の名前を名乗り挨拶をして,患者確認を行っている事は,評価できると思います.又,患者サービスの向上に関して,術前訪問の実施は,業務の一環として意識付けられ,情報をスタッフ間で共有して,手術室看護に,活かされていると思われます.更に術前訪問が充実した事で,各チームが行っているケーススタディにも,反映されています.個々がケースを通して,看護の振り返りができ,又チーム内の意見交換で,チーム活性化に繋がったと,考えます.

＜人事について＞

今年は年度末に,1名の退職者がありましたが,新年度は新採用者1名・勤務異動者2名と,看護科長含め16名,今までにない人数で始まりました.呼び出し当番も,人数が多いことで回数も少なく,負担は軽減されたと考えます.

＜勉強会について＞

今年は定期的ではありませんが,昨年同様コンスタントに勉強会を,開催することができました.縫合器・吻合器の仕組みについて,麻酔科で使用するエスラックスについて,麻酔科医師による救急対応方法について,12月最後には,胸部血管外科のステントグラフト内挿に関しての講義を受け,初めて当院で行われる手術に,対応しました. 今後も定期的な勉強会が,開催できる環境を整えていこうと,思っています.

＜看護研究について＞

今年の看護研究は, 1演題とし手術室では不可欠である,救急時の適切な対応に着目しました.救急対応マニュアルもなく,個々の考え知識だけで対応していた為,実際にシミュレーションして,マニュアルも作成しました.今後手術室看護に活かす事ができる,意義ある研究だと評価しています.

＜終わりに＞

今年は昨年より,手術件数はやや減少でありましたが,長時間の大きな手術と,臨時手術が多くなっている傾向にあります.看護研究にもありますが,臨時の緊急手術や救急事態に対応できるスタッフの育成が今以上に要求されてきます. 安全で安心できる手術室運営を皆様のご協力を頂いて努力して行こうと思います.